

推進モデルに8高校

県指定 新規4校、人材育成へ



東北誘致

県は28日、誘致を目指す国際リニアコライダー（ILC）の推進モデル校に県立高校8校を指定したと発表した。ILCは本県の北上山地（北上高地）が建設候補地。実現すれば経済や産業などで波及効果が期待

されるため、多分野で活躍できる人材を育成する。

本年度の新規指定は大船渡、釜石、水沢工、宮古商の4校、昨年度からの継続指定は盛岡一、花巻農、水沢、一関一の4校。

モデル校指定は、未来のILCを担う人材育成事業として昨年度開始。県は新規校に上限50万円、継続校に同75万円を支援する。本年度は複数校が研究者

らによるILC講演会や茨城県つくば市の高エネルギー加速器研究機構（KEK）の見学などを行うほか、盛岡一が他のモデル校との成果発表会を開催。花巻農は西洋野菜の栽培研究、宮古商は仕入れから販売までを生徒が行う「宮商アパート」に外国人対応学習を取り入れる。

県科学ILC推進室の植野歩未ILC推進課長は「高校生がILCってなんだろうという段階から、自分の将来の選択肢として身近に感じるよう関心を高め、誘致を全県で盛り上げたい」と展望を語る。